

第2学年 実践事例

主題名 友だちへの親切

〔内容項目 2－(2)〕

資料名 学びゆうえんの さつまいも

出典『小学校道徳 みんなたのしく』（東京書籍）

日 時 平成23年11月28日

1 ねらい

友だちに温かい心で接し、進んで親切にしようとする心情を育てる。

2 主題設定の理由

〔ねらいとする価値について〕

親切は、相手の立場に立って考えることが基盤である。低学年の児童にとって、相手の立場に立つことは容易ではないが、身近な人間関係に目を向けたこの時期に相手のことを考え、温かい心で接し、親切にしようとする心情を育てることは大切なことである。

人にやさしくしたり、助け合ったりすることが大切であることを感じ、実践していてもときには相手にとっておせっかいになってしまうようなこともある。自分本位ではなく、相手の立場に立って考えた言葉かけや行動が親切であることを感じ取らせたい。

〔児童の実態〕

この時期の児童たちは、学級生活にも慣れ、交友関係が広がりつつある。友達のことがわかり、困っているときには助けたり温かい言葉をかけたりできるが、自己中心的で、からかったり相手を傷つける言葉を発したり行動したりするなど、思いやりの心が不足している場面も見られる。そうした児童が思いやりの大切さを考え、相手のことを思った自分の言動が友だちの助けになり、よりよい人間関係を作っていくことにつながることに気づかせたい。

また、助け合ったり温かい言葉をかけ合ったりすることもあるが、どうしても傷つくことを言われたりされたりしたことが心に残ってしまい、友達に温かい心で接しようという気持ちが弱くなっている児童もいるので、親切にされたことやそのときの気持ちを振り返ることで、学級の仲間に温かい心で接して親切にしようとする心情を育てていきたい。

〔資料について〕

風邪をひいて、学級園の芋掘りに参加できなかった主人公みち子の心情の経過を中心に構成されている。家の布団の中で芋掘りはどうだったかと思いを巡らせるみち子のもとに、さつまいもが届く。お見舞いの言葉や励ましの手紙を添えたよし子の温かい心づかいに感動するみち子に焦点が置かれている。

「教室のみんなにもそのことを話したい」と思ったみち子の感動から、自分の行為や言葉が人の助けになり、人と人との信頼関係を築くものであることを考えられるようにしたい。

[研究テーマに関わって]

人とのつながりを大切にし、よりよい生き方を求める実践力の育成
～言語感覚を磨き、自尊感情を高める取組み～

本校の学校経営管理計画には、

「楽しくて分かりやすい授業の創造」の実現のための授業づくり（石部スタイル）

- i) 本時のねらい（＝到達目標）を板書する
- ii) 考えを書く活動を必ず入れる
- iii) 児童の考えを座席表で類別把握する
- iv) 対話活動による考えの交流を取り入れる
- v) 単元の終わりには、出来るようになったことを自覚させる

が示されている。

そこで、道徳の学習においても、ねらいにせまる手立てとして、以下のことを考えた。

- ① ワークシート（ii 考えを書く活動）・・・自分の考えや思いを整理するために、ワークシートに書く。
- ② グループによる聞き合い（iv 対話活動による考えの交流）・・・4～5人のグループでお互いの考えを伝え合い、自分の考えと同じ、似ている、もしくは違うと考えながら友達の考えを聞く。自分の思いを持ちにくい児童は、友だちの考えを参考にして考えることができる。
- ③ 座席表の活用（iii 児童の考えを座席表で類別把握）・・・授業前に、今までの授業から自分の思いを書くことに困っているかどうかをチェックしておき、教師の支援に活用する。授業の中では、児童の思いを座席表に書き留め、全体交流の話し合いに活かしたい。さらに、授業後は、児童の変容を見取るためにも活用する。

